

## 血栓化脳動脈瘤に対する塞栓術

### Embolization of thrombosed aneurysms

赤路 和則<sup>1)</sup> 望月 洋一<sup>1)</sup> 谷崎 義生<sup>1)</sup> 志藤 里香<sup>1)</sup> 神澤 孝夫<sup>2)</sup>

KAZUNORI AKAJI, YOICHI MOCHIZUKI, YOSHIO TANIZAKI, SATOKA SHIDOH, TAKAO KANZAWA

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

Department of Neurosurgery, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門

Department of Stroke, Mihara Memorial Hospital, Isesaki, Japan

[目的] 血栓化脳動脈瘤に対する塞栓術は困難なことが多い。当院にて、2008年1月から2015年5月までに、血栓化脳動脈瘤に対する塞栓術を4症例経験したので、治療経過を報告する。〈br〉

[症例1] 59歳、男性。2008年、歩行障害増悪にて来院。左不全麻痺、構語障害、嚥下障害あり。2.6cmの右椎骨血栓化動脈瘤。脳幹の圧迫あり。瘤の近位からPICAの分岐あり。右椎骨動脈閉塞試験困難。右椎骨動脈を瘤近位から遠位まで閉塞した。PICAは温存できた。術後、瘤は縮小。脳幹の浮腫改善。術後、歩行障害改善。1年後、左麻痺極軽度、構語障害軽度、嚥下障害なし、mRS 1。現在まで再発なし。〈br〉

[症例2] 39歳、男性。右動眼神経麻痺悪化あり。2009年、脳血管撮影施行。1.3cmの脳底動脈上小脳動脈分岐部血栓化瘤再発（1997年、くも膜下出血発症し、他院で瘤内塞栓施行）。瘤内塞栓施行。Neck remnant。1年後、複視かわらず、mRS 1。瘤の再発あり、2010年、再び瘤内塞栓施行。Neck remnant。現在まで再発なし。〈br〉

[症例3] 65歳、女性。2010年、くも膜下出血で発症。呼吸停止あり、WFNS G5。3cmの脳底動脈上小脳動脈分岐部血栓化瘤。瘤内塞栓施行。完全塞栓。1年後、歩行可能、複視、記憶力障害あり、mRS 3。現在まで再発なし。〈br〉

[症例4] 64歳、女性。2011年、右外転神経麻痺あり、頭痛あり、来院。3.5cmの右海綿静脈洞部血栓化内頸動脈瘤。瘤の遠位から眼動脈の分岐あり。右内頸動脈閉塞試験陰性。右内頸動脈を近位で閉塞した。術後、瘤は縮小。1年後、頭痛なし、右外転神経麻痺改善傾向、mRS 1。現在まで再発なし。〈br〉

[結語] 血栓化脳動脈瘤に対する瘤内塞栓2症例、親血管閉塞2症例を経験した。再治療例もあったが、治療成績は良好であった。開頭クリッピング術の困難な血栓化脳動脈

瘤に対し、症例によっては、まず塞栓術を選択してもよいと考えられた。